

作品紹介

「重なり合う風の作る形」
住友電気工業株式会社 研究本館「WinD Lab」モニュメント

池田 晶一
日本福祉大学 健康科学部

"The form that wind to overlap makes"
Monument for Sumitomo Electric Industries, Ltd. study Main Building "WinD Lab"

Shoichi Ikeda
Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University

Keywords: 環境芸術, セラミック



「重なり合う風の作る形」

1. 住友電気工業株式会社 研究本館「WinD Lab」について

住友電気工業株式会社 研究本館「WinD Lab」は、2009年に竣工された。

緑化事業や大阪製作所東地区の再開発も進められてきた。研究本館「WinD Lab」3階の事務所には、屋上庭園が設けられ、研究本館横には約800坪の広さのバラ園が整備されている。

研究開発活動の拠点として、多くのスタッフやゲストが訪れる場所である。

2. 作品の制作経緯

2010年に、研究本館「WinD Lab」のモニュメントの依頼を受け、研究本館エントランスのモニュメント、及び屋上庭園、バラ園への作品についての検討を始めた。

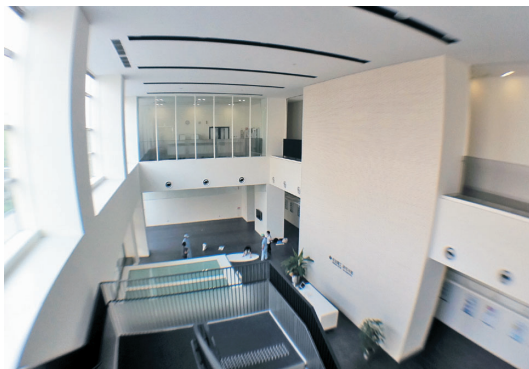
研究本館エントランスは、モニュメント等を設置する予定の場は確保できていたが、フリーハンドでここにふさわしいプランの提案を求められ、現場に何度か足を運び、打ち合わせを行いつつ、その場の特性や理想的なあり方を私なりに形にし、現場と相談しながら細かな提案を詰めて行く事となった。

3. 作品のプランと作品の考え方

作品は、研究本館エントランス、屋上庭園、バラ園の3カ所に設置する事になった。

(1) 研究本館エントランス

研究本館エントランスは、研究所の玄関で、片面はガラス張りの壁面で、風防室がある。風防室の自動ドアを抜けると、吹き抜けの大きな空間のあるエントランスへと入る。



(写真1) エントランス2階から

エントランスは、2階部分まで吹き抜けとなり、天井は非常に高い。

この重要なテーマは、「WinD Lab」のキーワード「風」である。

この研究所には5つの部署があり、それぞれが重要な役割を担っている。そこから考えたイメージは、モニュメントそのものは動くものではないが、風を感じる様なうねりと、5つの重要な柱が重なりあい、より大きなうねりを作り出す、そんな雰囲気を作りたいと思った。

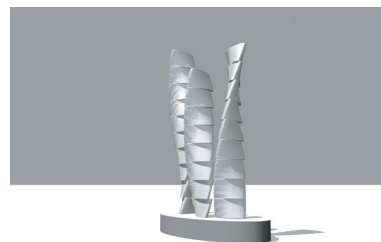
またここには、毎日200人の研究所員が通勤し、エントランスに出入りする。また、ゲストもこのエントランスを通り招かれる事になる。

私は毎日ここに来るスタッフの為に、朝は元気よく向かえ入れ、夕方には一日の仕事をねぎらう様な雰囲気を作りたいと考えた。その為には、作品に照明の効果も取り入れ、朝は外光からの清々しい光、夕方から夜には暖かみのある光で作品を包み、柔らかな効果を出す事を考えた。

ゲストに対しては、サプライズな驚きを与えられる様なスケール感も備えたいと考えた。



(図1) エントランスのモニュメントプラン



(図2) 階段横のプラン

(図1)が3Dで作成したモニュメントのプランである。この5本の柱は、エントランスに入り、左側に位置するが、多くの人は右側のエリアへと進む。

その先には階段があるが、私はここにも階段を半ば目隠しする様な形で、少し背の低い3本の柱(図2)を設

ける事にした。

その意味は、住友電気工業株式会社が、今後新たな領域を開拓し、今はまだ大きな形ではないが、いずれそれが会社をさらに大きく支える柱になって行く事を意図した。

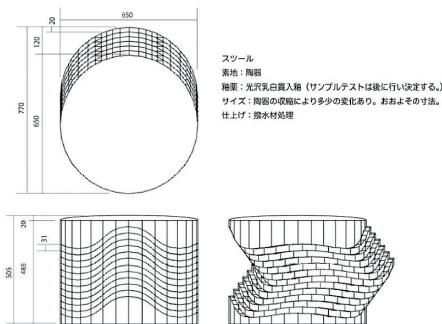
現在から未来につながる、この場にふさわしいモニュメントとしたかった。

(2) 屋上庭園

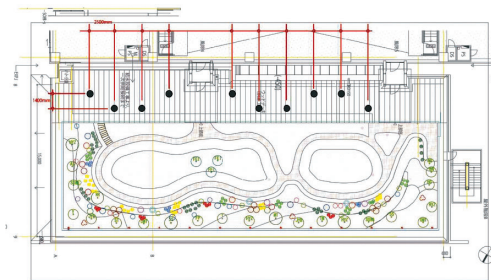


(写真 2) 屋上庭園

屋上庭園は、右側にオフィスがありガラス張りで外の庭園が見える。ウッドデッキが空間を作っているが、何も置かれておらず、休憩等で利用されている雰囲気なかった。



(図 3) スツールの図面



(図 4) スツール、プランターの配置図

ここには、スツールとして腰掛けられる作品を設置し、休憩時間等に庭園を眺めながら過ごせるように場を構成する事とした。

また、スツールと同形のプランターを作成し、季節の草花を植える事で、その変化を感じられるように考えた。

(3) バラ園

バラ園には、多くの種類の薔薇が植えられ、薔薇そのものがメインの庭でなくてはならない。

(図 5) は、バラ園の平面であるが、人が集える場所



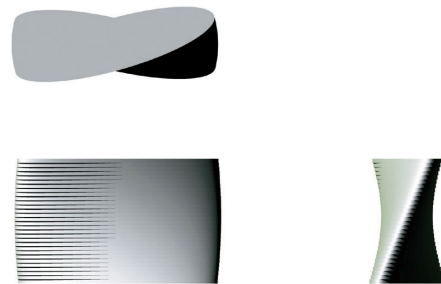
と回遊路で構成されている。芝生や人の集まれる場所には、屋上庭園と同じスツールを配置し、バラ園の中にもバラ園が立体的になるように、プランターを配置する事とした。

作品に腰掛けながら薔薇を見回し、心地よい時間をここで過ごす事を意図した。

(図 5) バラ園の平面図

4. 作品の制作

モニュメントは作品の構造計算等も必要な為に、設計も含めて業者に協力を求めて進めた。



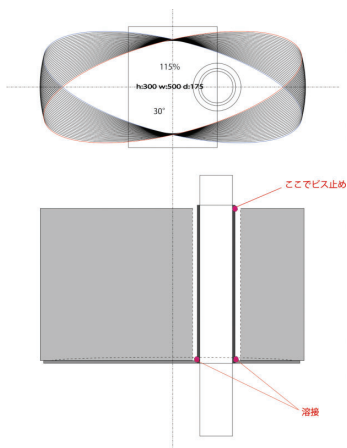
(図 6) セラミック部品図

(6 図) のセラミック（焼き物）のパーツは、発泡スチロールから、石膏へ形を置換え、その後、鑄込み成形の為の石膏型の制作 成形（石膏型鑄込み成形） 乾燥 素焼き 釉掛け 本焼きと工程を進める。

石膏型鑄込み成形とは、石膏型の中にクリーム状の粘土を流し込み、石膏に水分を吸い取らせて、粘土の厚みを付けて行く方法。

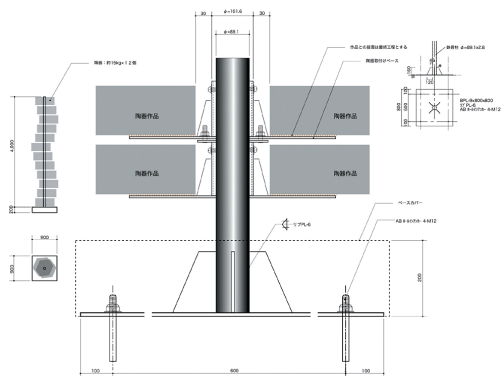
粘土は、ニューボーンと言うクリーム色がかった白い磁器を用いる。

その作業と平行し、(7図)にある金物パーツを作製する。



(図7) 金物図
図面 (株)電産企画制作

セラミックパーツと金物パーツを接着し、現場の組み立てに備える。



(図8) モニュメント組み立て図面
図面 (株)電産企画制作

(図8)は、モニュメントの組み立て図面であるが、現場において支柱の設置工事を行い、その後組み立て工事を行う。

屋上庭園とバラ園のスツール及びプランターは、発泡スチロールで基になる形を制作し、石膏型を取る。その石膏型に、粘土を貼り込んで形を作って行く、型起こしという技法を用いる。

粘土は信楽の大物様の粘土を用いた。

5. 作品データ

作品設置場所：住友電気工業株式会社 研究本館「WinD Lab」

所在地：大阪市此花区島屋 1-1-3

施工：株式会社電産企画 大阪市西区立売堀 1 丁目 14-20

エントランスモニュメント

作品名：「重なり合う風の作る形」

作品サイズ：エントランス部 h 3400 x w 2300 x d 1200mm

h 3400 x w 1800 x d 1050mm

階段横 h 3400 x w 2300 x d 1200mm

制作年月：2011年8月

素材：ニューボーン(磁器)、ステンレス

釉薬：透明釉

窯元：明知製陶 岐阜県恵那市明智町徳間町 542-16

屋上庭園、バラ園/スツール、プランター

作品名：「光と風が集う場所」屋上庭園

作品名：「光と風を感じる場所」バラ園

作品サイズ：スツール w 650 x d 770 x h 505 (mm)

プランター w 650 x d 770 x h 495 (mm)

制作年月：2011年8月

素材：信楽陶土

釉薬：ラスター釉

窯元：陶器屋 滋賀県甲賀市信楽町神山 1500

6. おわりに

住友電気工業株式会社 研究本館「WinD Lab」の作品制作は、依頼からプラン作成、パーツの制作期間、現場組み立て工事と、長期にわたるプロジェクトとなった。

私自身は、陶磁器素材に関する知識や技術に関してはその専門であるが、3mを越す造形物を実際に存在させるには、多くの専門家の協力を得ることとなった。

大型の焼き物を作るノウハウは、窯元との連携によって、作品の構造に関わる部分は建築の専門家、金属部品の製作に関しては板金専門の業者、制作工事全体の管理に関してはその専門の業者の方等、多くの人の力によってこの作品が出来上がった。

この場を借りて御礼申し上げます。

また、今回作品の依頼を頂いた住友電気工業株式会社様には、私自身が私の思い描いていた作品の世界を実際に実現するこの上ない機会を頂いた。心から感謝する。

作品がこの場所で末永く愛される事を願う。



「重なり合う風の作る形」 エントランス



「重なり合う風の作る形」 階段横





「光と風が集う場所」屋上庭園



「光と風を感じる場所」バラ園

